

平成19年度2月 品川区学力定着度調査

小中連携による学力向上に向けた取り組み結果の公表

目 次

1 7年生の調査結果等から見られる5～7年生の課題

- (1) 日野学園7年生の結果から見た5・6年生の課題(国語・数学共通)
- (2) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化(国語)
- (3) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化(数学)

2 課題に基づいた5～7年生の目標

- (1) 今後の指導・対策の目標(国語)
- (2) 今後の指導・対策の目標(数学)

3 課題解決のための方策

- (1) 基本方針
- (2) 具体的な対策

1 7年生の調査結果等から見られる5～7年生の課題

(1) 日野学園7年生の調査結果から見た5・6年生の課題(国語・数学共通)

国語、数学とも半数以上の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的な定着状況は高いといえる。したがって、これまで行われたきた学習を反映し、概ねよい成果をあげているので、現在行っている学習は引き続き指導を重ねていく方向でよい。その一方で、習熟基準を下回る正答率の設問もあり、今後、その部分は、重点的に改善・対策をしていくことが必要であることが明らかになった。

(2) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化(国語)

漢字では、「読み」はよいが、「書き」は努力を要するというのが区全体の調査結果から明らかになっている。日野学園7年生の調査結果でも同様である。

言語事項に関する内容3問(主語・国語辞典の使い方・敬語の使い方)、文学的文章の読み取りに関する内容1問(人物描写)、説明的文章の読み取りに関する内容3問(内容把握・主題) 極端に劣っている分野はなく、全体的な定着状況は悪くないと言える。

(3) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化(数学)

「分配法則を用いて、小数の計算を工夫して計算する」、「括弧を含む正負の数の四則計算」など計算の工夫をすることに課題があると思われる。

「道のりと速さから時間を求める式」、「2つの量が比例する関係を選択する」、「樹形図をかくて個数を求める」問題など習熟基準を下回り、日常の中にある数量関係を数学的に捉えることが苦手な傾向が見られた。

図形と計量では、時期的に問題演習の時間が足りなかったことが、正答率が習熟基準を下回った要因と思われる。

2 課題に基づいた5～7年生の目標

(1) 今後の改善・対策(国語)

- ・書き誤りやすい漢字については、授業の中で意識的に取り上げ、注意を促し確認する指導を行いたい。また、繰り返し漢字を書かせる指導を徹底することで、自ら学習をする習慣を身につけさせたい。さらに、例文や作文の中でも積極的に漢字を活用させ、語彙力を育成する指導も継続的に行うことで、漢字を書く力を伸ばす。
- ・1年から7年まで「漢字ステージ100」を利用した学習によって、漢字の正しい形や筆順、語例や例文による語彙理解、作文への活用等の指導を行い、弱点補強をする。
- ・8・9年、特に8年への指導については、必修授業及びステップアップ学習での指導を継続的に行い、正しい漢字を繰り返し書くことによって、漢字の力を補強する。
- ・文法や語句の知識については、「文法」や「言語」の分野で指導するだけでなく、読解指導や作文指導で積極的に取り上げ、日常の会話においても正しく使用できるよう、繰り返し確認する。
- ・文章中の様々な表現から登場人物の行動や心情を読み取り、全体の内容もつかんでいく指導する。

- ・キーワードに注意しながら読み、文章構成を理解させる。また、問題の条件（何文字以内や、「～から」などで終わるなど）に合わせた解答の仕方を理解させることも必要である。読解指導だけではなく、作文やスピーチにおいても論理的に説明させる学習を行う。
 - ・自分の伝えたい事柄を明確にし、具体的に表現できるよう、引き続き指導を行う。
- (2) 今後の改善・対策（数学）
- ・小数の計算は、整数や分数の計算と並んで数学の必要な基礎学力のため、必修教科や習熟度別学習、ステップアップ学習 などを通じて、1学期間、継続した指導をしていく。
 - ・比例・反比例での学習は、式やグラフの利用にとどまらず、日常生活の中の数量関係にも利用出来るよう、比例・反比例の考え方やその利用方法を指導していく。必修教科の「1次関数」の単元や、習熟度別学習、ステップアップ学習 などを通じて指導をしていく。
 - ・図形分野は生徒が興味を持って組める分野であるため、必修教科の中でも時間を設けて取り組んでいく。また興味のある生徒にはステップアップ学習 ・ などを通じて扱っていく。

3 課題解決のための方策

(1) 基本方針

小中一貫校として、小中一貫教育カリキュラムに基づいて9年間の学習活動を通して、基礎基本の定着と応用力を高めていく。まず、1～4年は、基礎基本の定着を徹底させる。次に、5～7年では、一貫校の特色でもある中学校の教員による教科担任制をどの教科にも導入し、専門性を生かした指導によって、基礎基本のさらなる定着と発展的な学習の基礎となる力を付けていく。さらに、8・9年は、基礎基本を確実なものとし、発展学習に取り組む態勢を構築していく。

また、豊かな人間性を身につけ、社会力を育むために、市民科の授業を充実させるとともに、学級・学年での活動、小中一貫校ならではの異学年の活動、学校行事などを実施することで、多面的な学力と豊かな心を育てていく。

- ・小中一貫教育カリキュラムの実施と教科担任制の実施。
- ・都・区講師の適正な配置と活用。
- ・ステップアップ学習 ・ ・ の充実。ステップアップ学習（根っこの時間）による基礎基本の定着、ステップアップ学習における学習キャリアアップ、ステップアップ学習での問題解決学習。
- ・習熟度学習、少人数学習、個別学習等様々な学習形態の展開。特別支援教育の推進。
- ・小中一貫校の特色を最大限に活用し、豊かで多面的な学力と豊かな心の醸成。

これらの、基本方針は、本学園が5月に公表した「平成19年度2月実施 学力定着度調査の結果」と同じである。今回、連携している御殿山小学校、第一日野小学校、第三日野小学校と本校の4校検討委員会でこの方針を確認し、さらに進めていくということになった。

(2) 具体的な対策

○小・中連携校で一致して取り組む内容

4校検討委員会で、学力定着・向上について、継続して協議・検討を行う。

年間4回の合同研究会で各校の実態の話し合いを踏まえるだけでなく、合同の意識調査、合同研究授業を通して、共通の取り組みを行うように実践を進める。

特に、学力に直接関係する3つの分科会（漢字ステージ、英語、ステップアップ）では、指導方法、指導内容を明らかにし、共通して行う部分と、学校独自に特色を出す部分とに分けて、以下のように、学力定着・向上を目指す。

・漢字ステージ分科会

漢字ステージの定着度調査を行う。また、漢字力の定着度をあげるための手立ての工夫・実践報告を行う。

・英語分科会

英語学習に関する意識調査（5，6，7年）を行う。また、授業公開を通して他校の英語の授業を見合い、実践につなげていく。

・ステップアップ学習分科会

算数・数学の学力定着・向上をテーマとして活動する。ステップアップ学習での計算力チェックカードの検証をする。また、7年ステップアップ学習の授業参観を行い、共通して行う指導方法、指導内容を決め、学力定着・向上を目指す。

日野学園で取り組む手立て

・ステップアップ学習（根っこの時間）における基礎基本の徹底

基礎基本の指導の中で、学力調査では、正確さに欠けることが指摘されている。その点を改善していくように、各担当者も十分配慮し、指導していく。1～9年すべての学年において、毎日の25分間の小刻みな学習の積み上げによる基礎基本の徹底を図る。

1～4年は、根っこの学習として国語・算数・英語の3教科で、漢字の読み・書き、算数では簡単な計算を繰り返し学習する。英語では児童に興味関心を持たせる意識付けを中心に行う。

5・6年では、引き続き国語・算数・英語の3教科で実施し、国語・算数・英語の基礎基本の定着と図る。

7年では、5教科すべての教科について全員に輪番で学習させることで、小学校での学習の基礎基本を振り返って学習すると共に、すべて教科の基礎基本を徹底させていくようにする。

8・9年においては、5教科の中から、生徒が自分で2教科を選択し、不得意な教科の克服を目指すことに重点を置く方法や得意な教科を確実に定着させることをねらいとして、学習ガイダンスを通して自主的に選択し、学習を進めていく。

・ステップアップ学習で目指す学力向上

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ

細かな指導の体制をつくっていく。

・特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

・小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上

本学園では、小中一貫校の良さを生かした教育活動を展開する。すでに前年度から実施しているが、専門性を生かした中学校教員による5年生からの教科担任制を全教科で展開し、学力の向上を図る。また、一貫校では小中教員の共同体制で、1～9年間のきめ細かな指導を展開していく。

さらに、長期休業中の補習授業(サマースクール)に習熟度別学習を取り入れたり、学期中の放課後に学力補充の学習場面を設定したりして、個に応じた指導をする。

それだけでなく、1～4年ブロック、5～7年ブロック、8・9年ブロックでのまとまりを生かした学習活動を重視し、ブロックの教員がなお一層の連携を図る。